

令和7年度 岐阜市立鏡島小学校 学校経営構想

児童の実態 ○多くの児童が明るく素直で優しい ○基礎的な学力は概ね定着している △活用力や発信力に弱さが見られる △自己の良さの自覚が弱い 学校のミッション ①協働の力やコミュニケーション能力の向上 ②自己の良さの自覚と他を思いやる意識の高揚	学校の教育目標 ふれあい 考え やりぬく 鏡島の子 めざす児童の姿 ・身に付けた基礎・基本を活用し、仲間と協働して課題解決できる児童 ・自他ともによさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる児童 ・目標をもって、最後まで粘り強くやり抜くことができる児童 教師が身につけるべき力 ◇学びの本質に向かい、将来に生きて働く力を育てる授業の創造する【授業構成力】 ◇温かな愛情を基盤とした学級集団を組織する【学級経営力】 ◇個の特性を生かし、個の伸長を図る【児童理解力】	市の学校教育の方針と重点 ●一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う教育『希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育』をめざして 経営 校長のリーダーシップのもと、教職員や地域コミュニティとの協働による積極的な攻めの学校経営 指導 愛情をもって児童生徒の個性や能力の理解に努め、その子よさや可能性を伸ばす指導 研修 教員の育成指標に基づいた高い専門性と指導力の育成及び自己課題に対する効果的・主体的な能力開発
--	---	---

Key-word 教師 児童 目当てをもって なかよく 考え たのしく 活動			
経営の重点 「学校の教育目標」の視点から			
	ふれあいの力をもった児童 ↳ 良好な人間関係を築く力 ↳ 思いを伝え受け入れる力	考える力をもった児童 ↳ 学んだ知識技能を活用する力 ↳ 自ら学び続けようとする力	やりぬく力をもった児童 ↳ 物事を楽しく活動する力 ↳ 得意なことを自覚する力
あいさつ・そうじ・聞く・話す	◎なかよく気持ちの良い挨拶 ○心のこもった温かい挨拶で、互いの良さを共有する 笑顔で目を見て元気よく	◎考えを広げ深める学び ○仲間と聞く・話す活動を通して、自分の考えを深め、学びに役立てる	◎より良いことを楽しむ活動 ○より良い生活を目指して創意工夫をし、仲間とともに楽しく活動する
「ふれあい」	・異学年交流や地域とのふれあいの中で、挨拶を広げる ・仲間や地域との交流で感じた温かさを発信する	・交流で考えを深めるためのロイロノートの効果的活用 ・意見から学び合う喜びを感じる聞き方・話し方	・鏡島のぎふMIRAI's「ひょうたんプロジェクト」の推進 ・必要な掃除や活動を考え、楽しく行う
良さの自覚	☆なかよく挨拶したり、ともに活動したりする良さを感じることによって安心感や自信をもち、自主性を高める	☆仲間と考えを出し合って学びを深めたり、改善したりしたことを発信し、さらに役立てようとする	☆人に役立つ喜びや、やりぬいた自信から、さらに次の活動に向かう意欲を高め、行動する

生活指導委員会 あいさつ 担当 ◎重点 ・あいさつを通し、温かな人間関係をつくる子を育てる ◎具体的な方途と見届けの仕方 ・目標（なかよく挨拶）についての振り返りから、自分も相手も温かい気持ちを感じ合えたことを実感できる指導 →自己肯定感から他も大切にできる感情を	学習指導委員会 聞く・話す 担当 ◎重点 ・聞く・話す活動を通し、自分の学びに役立てる子を育てる ◎具体的な方途と見届けの仕方 ・目標（学びの深まり）についての振り返りから、学ぶ楽しさを広げる指導 ・ロイロノートによる交流での価値づけ →深めた学びや感動を発信する	健康安全指導委員会 そうじ 担当 ◎重点 ・そうじの中に安全でより良い生活するために必要な行動を考える子を育てる ◎具体的な方途と見届けの仕方 ・目標（活動の工夫継続）についての振り返りから、やりきった自信を積み上げる指導 →役立つ喜びを他の活動の原動力に
--	---	--

地域や保護者に信頼される学校づくり…子どもたち一人ひとりが大切にされ、地域の中で愛され、生き生きと活動できる学校
 ○子どもたちが地域の一員として、地域と密接に関わりながら学習を創造する学校づくりを推進する。・・・ぎふMIRAI'sの推進
 ・岐阜市、鏡島校区の魅力を子どもたちとともに再発見し、子どもたちと夢を語り合い、発信する。
 ・学校運営協議会、推進委員会の充実と積極的な協力要請 ・PTA本部役員や自治会、青少年育成市民会議等との密接な情報交換と連携
 ・HPやスクール連絡帳等による迅速・正確な情報伝達 ・子どもたちの安心安全に係る確実な報告・連絡・相談体制と迅速・正確・誠実な対応

地域や保護者に信頼される教職員の育成…教師にとっても一人ひとりが大切にされ、個々の能力が発揮できる学校
 ○子どもにも軸足を置きながら、教師の意識改革を行い、働き方改革と自己研鑽の両立を図る。
 ・時間外勤務月平均40時間未満目標 ・ICT活用による会議時間等の大幅減 ・年休取得の推進 ・個々の能力を生かした校務分掌
 ・ICTを積極的に活用し、教材準備を効率化→児童に寄り添った個別指導の充実 ・scrap&buildによるカリキュラムの再編成
 ・学び合う職員集団の形成、情報の共有→不祥事根絶・未然防止の取組、セルフチェックの強化、危機管理意識の高揚